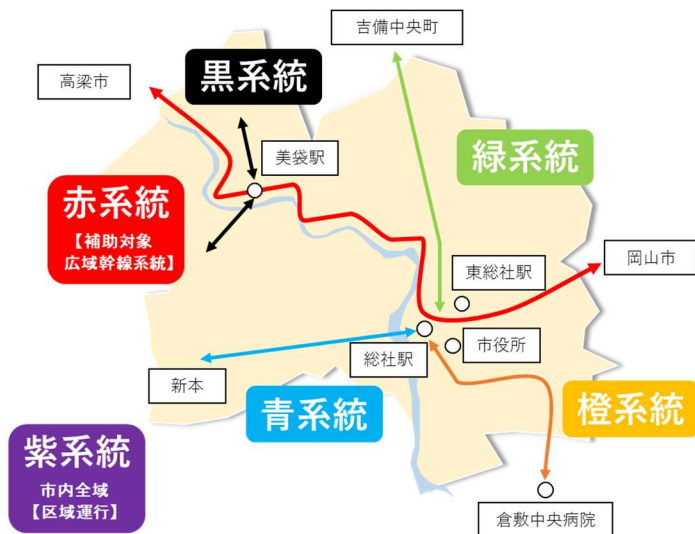


① 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の地域の公共交通における位置付け・役割



位置づけ	系統	役割	交通手段	維持・確保の方向性
★広域幹線	乗合バス 赤系統	岡山市や高梁市を結ぶ幹線交通であり、通勤・通学や高齢者の通院や買い物等、多様な目的での移動を担う。	備北バス (地頭～岡山線)	岡山市及び高梁市への通勤・通学や高齢者の通院や買い物等、多様な目的での移動を担うことから、市と周辺自治体及び事業者が協力して、維持に取り組む。
	乗合バス 緑系統	吉備中央町と本市を結ぶ唯一の公共交通機関であり、通勤・通学や高齢者の通院や買い物等、多様な目的での移動を担う	中鉄バス (総社南高北・総社駅～妙仙寺・宮前線)	吉備中央町と本市を結ぶ唯一の公共交通機関であり、通勤・通学や高齢者の通院や買い物等、多様な目的での移動を担うことから、市と周辺自治体及び事業者が協力して、維持に取り組む。
地域内幹線・支線	乗合バス 青系統 ※黒系統 橙系統	市内並びに隣接市の各拠点を連絡する。	中鉄バス（総社～新本線） 美袋交通（美袋～槁線，美袋～木戸線） 日の丸タクシー（倉敷中央病院往復便）	交通事業者と協議の上、一定以上の運行水準を確保。
	乗合タクシー（区域運行） 紫系統	市内各地域を運行し、軸となる幹線や地域拠点に接続する。	委託事業者	交通事業者と連携した取り組みにより一定以上の需要を確保。

※黒系統はR3. 3. 31廃線

本計画における理念を踏まえ、隣接する岡山市、高梁市との間を結ぶ定時定路線の移動サービスを広域幹線（赤系統）として位置付ける。

当該路線は市内の主要な駅を通過すること、また新生活交通の運行エリアである、「昭和」「池田」「共通」「東部」を経由することから、市外への移動者が雪舟くんからの乗り換えにも活用できる。そのため、市内外への重要な移動手段という役割を担う。

② 前号を踏まえた地域公共交通確保維持事業の必要性

赤系統は岡山市及び高梁市への通勤・通学や高齢者の通院や買い物等、多様な目的での移動を担うことから、市内外への移動手段として重要な役割を担っている。一方、自治体や事業者だけの運営努力だけでは路線の維持が難しく、市と周辺自治体及び事業者が協力して、維持に取り組む必要がある。

③ 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統に係る事業及び実施主体の概要

系統	起点	経由地	終点	事業許可 区分	運行態様	実施主体	補助事業の活用
赤系統	地頭	古町	岡山	4条乗合	路線定期運行	交通事業者	幹線補助
緑系統	総社南高北	妙仙寺	宮前	4条乗合	路線定期運行	交通事業者	なし
青系統	総社駅	あおい ハイツ東	新本	4条乗合	路線定期運行	交通事業者	単市補助
※黒系統	美袋駅		木戸	4条乗合	路線定期運行	交通事業者	なし
※黒系統	美袋駅		槁公会堂	4条乗合	路線定期運行	交通事業者	なし
橙系統	総社駅	総社市役所等	倉敷中央病院	4条乗合	路線不定期運行	総社市（運行は交通事業者に委託）	なし
乗合タクシー（区域運行） 紫系統	市内全域			4条乗合	区域運行	総社市（運行は交通事業者に委託）	なし

※黒系統はR3. 3. 31廃線

④ 地域公共交通計画の区域内全体における地域旅客運送サービスの利用者の数、収支、費用に係る国又は地方公共団体の支出の額その他の定量的な目標・効果及びその評価手法

(1) 事業の目標及び評価手法等

目標	数値指標	データ取得方法	現況値（R4年度）	目標値（R7年度）
交通事業者との連携強化による路線の維持・改善	市内路線バスの1日平均利用者数	バス事業者保有の乗降データにより毎年計測	93人/日	100人/日
地域全体でささえる持続可能な公共交通	市内路線バスに係る市の財政負担額	普通会計決算により毎年整理	576万円/年	現状維持
	市内路線バスの収支差	事業者報告書、決算報告書等の資料から毎年計測	▲2,806万円/年	現状維持

(2) 事業の効果

当該路線を維持することで、JRや自家用車以外の岡山市並びに高梁市への通勤・通学、買い物等の交通手段が確保されることから、活動機会が増加し、生活の質の向上を図ることができる。